

令和7年度 清瀬市立清瀬第四小学校 学校経営方針

校長 長 沼 正 城

本校は、清瀬市教育委員会の育てたい5つの力と本校の教育目標を関連付けて具現化を目指す。

- ①「生きて働く知識・技能」
- ②「未知の状況でも活用できる思考力・判断力・表現力」
- ③「生涯に渡って学び続ける力や人間性」
- ④「故郷清瀬を誇りとし持続発展の主体者となる力」
- ⑤「自他の命を何よりも大切にできる力」

◆本校の教育目標◆

- ①「すなおな明るい元気な子」
- ②「なかよく力を合わせる子」
- ③「よく考えやりぬく子」
- ④「自然に親しむ子」

◆学校の教育理念◆

“一人を大切に、一人も取り残さない”をモットーに、素直な心を信じ、引き出しながら人間形成を図る“人間教育”を理念とする。

◆目指す学校像◆

学校像「明るい声が響き合う清瀬四小」を目指す。「信頼関係」を柱とし、思いや考えに耳を傾けながら安心感を醸成し、さまざまな活動を通して**達成感**を味わいながら「自信」をもたせ、「やりたい！」を引き出しながら、「生きる力」を育む学校を創造していく。

- (1) 「仲間大好き、先生大好き、自然大好き」と児童の笑顔が光る学校 ①④
- (2) 主体的対話的な学習過程で学力を付け、わかった！できた！もっとやりたい！が高まる学校 ③
- (3) 様々な個性を受け入れる「共生」と自分で考え行動する「自立」の心を育てる学校 ①②
- (4) 保護者の願いと学校の思いを互いに共有し、同じ方向を向いて児童を育てる学校
- (5) コミュニティスクールを活用し、さらに開かれた学校づくりを推進する。

◆学校経営の方針◆

- ◎キャッチフレーズ「ホントのチカラ 清四小」の追究を重視。（学校の特色）
 - ・いろいろな本をたくさん読むこと（読書量）。
 - ・調べる学習に図書を活用すること（課題解決型）
- ◎児童像の重点として、「主体的に学ぶ子」（やり**たい**と主体的に活動する姿）と「仲間の力をかりる子」（お願いします、ありがとうの姿）、「自分の成長を感じる子」（自分の良さに気付く姿）を重視。
- ◎一人一人の「目標達成型」を重視。「苦手としていること」（ちょっとがんばればできそうなこと）を見つめさせ、引き出すこと。
- ◎一人一人の成長・変容を見守り・見届け、具体的にほめ、その良さを価値づけることを重視。
- ◎人との関わりの中で、礼儀・あいさつ等の「人として」の基本を重視。
- ◎何度でもチャレンジする、より良い方法を見つける等、粘り強く取り組む態度を重視。

- ◎「子供を主語（主役）」にした授業や行事を行い、達成感を実感させることを重視。
 - ・自分の現在地で立ち止まって考え、「学び直し」や「自己評価力」（めあてとふりかえり）を重視。「目標達成型」を大事にする。
 - ・「先生が指示して作業させる」「先生がまとめてしまう」授業から脱却する意識。
- ◎人の話を最後まで聞き、自分の考えを伝えること、分かりやすく説明することを重視。
- ◎保護者・地域に愛される学校（学校を好きなる）となるように、「つながる」「関わる」意識を重視。
- ◎「児童理解」に徹し「なぜ？」「どうしたら？」と考え続ける教師・支援者の意識を重視。

（１）確かな学力の定着と学ぶ意欲の向上（分かりやすい授業が学ぶ意欲を高める）

- 教室環境と授業のユニバーサルデザイン化の定着。どの児童にも分かりやすい授業実践。
- 「読める」「書ける」「話せる」「計算できる」「演奏できる」等の「基礎的な技能」について自信がつくよう個別に指導をする。
- 「読書シート」の活用、読書量の目標を決め「読書習慣」の定着、想像力の涵養を図る。「めあて」「思考」「学び合い」「ふりかえり」という学習過程を通して児童の変容を確実に把握し、児童へのフィードバックを通して達成感をもたせる。
- 語彙力の向上を図るために、語彙の土台となる漢字力を培う。「清四漢検」の整備・実施。
- 俳句や詩の音読・暗唱したり（教科書教材や音読集等）、発表や説明したり、集中して話を聞いたり質問したり等の言語活動によって、**声を出すことに自信**を持たせる。
- タブレットPC活用による主体的な学習過程で「探究心」を育んだり、個別最適な学習をとおして「学びに向かう力」を養ったり、協働学習を広く深く展開したりする。（ミライシード活用）

（２）人としての基礎づくり（人生１００年時代を生き抜く豊かな心と体力の土台をつくる）

- 「礼儀と規律」…褒めて評価し、具体的な良い行動を価値付け、自己肯定感を高める。
- 「凡事徹底」…目を見てあいさつ・会釈の励行・返事・言葉遣い・整理整頓・清掃・物を大切に、くつのかかと揃えの定着を図る。
- 「命の教育」…いじめ・いじり・いじわる等の具体例をあげた指導や、「認知症サポーター養成講座」「ハンセン病資料館出前授業」「障害のある方との交流」等をとおして、「生きた知識」として人権意識を高め、自他の生命を尊重する態度を育てる。
- 「体力向上」（運動好き）…体力テストの結果を踏まえた方策を実施する。例えば持久力や瞬発力等の課題に対応した「なわとび」「ランニング」等が挙げられる。生涯学習（自己体力向上・維持）の土台づくりとする。
- 「運動量の確保」…外遊びの励行、体育授業の２０分間以上の運動量の確保等で、体力向上の意識化を図る。
- 「SDGｓの理念の行動化」…食べることは生きること、食べられることに感謝する食育を実施。「給食を残さず食べ切る」ことを目標にしつつ、「自ら調整する力」を育みながら粘り強さを育む。
 - ・SDGｓに関連した探究的な学習を社会科・総合的な学習等でカリキュラム・マネジメントを工夫して実施する。
- 「社会性やボランティア精神」…にこにこ班（縦割り班）活動を通して思いやりの行動を見取り、価値づける。
- 情報化時代に対応した「情報リテラシー」「ネットリテラシー」を向上させ、誹謗中傷する行為や詐欺行為を正し、間違った情報に敏感になる感性等を養う。

(3) 一人の子供を大切に、強い使命感をもって子供と向き合う教師像「あいうえお、か！」

- 【**安心感を与える先生**】不登校及び欠席の多い児童、教室で手間のかかる児童には、特別に寄り添い、あらゆる機会を通じて本人の気持ちを聞き出し、児童理解を深める。
- 【**いじめに毅然と対応する先生**】軽微ないじめを見逃さない敏感なアンテナを張り、子供の困り感に素早く対応する。「いじめ防止基本方針」（本校 HP 参照）に則った対応を迅速に行う。奇数月に「ふれあいアンケート」を実施し、軽微ないじめを認知し解決する。
- 【**うまくほめて励ます先生**】児童のよさを見付け、伸ばし、広げ、価値づける
- 【**笑顔を絶やさない温かい先生**】明るく元気に児童に向かい合う。
- 【**落ち着かない児童にじっと耳を傾け見届ける先生**】主体性を尊重しつつ、できないこと、やるべきことを教諭し、粘り強く寄り添い受け止める。
- *【**関わり方を更新する先生**】特別支援教室「きらり」との情報共有、アセスの結果から児童理解を深める。→児童の良さを発見し記録する先生→【課題意識】

(4) 保護者の思いや願いを真摯に受け止め、家庭や地域の連携を重視した学級・学年経営

- 年3回の個人面談を実施し、一人一人の児童理解を深める。また第2回と第3回は、「学習状況表」をもとにした共通認識と、今後の課題と具体的な取組を共有していく。
- 「あゆみ」の所見は、その児童の「達成感」や、その児童の「個性が光る姿」等、その子の良さを価値づけ、親子ともに自己肯定感を高めることを旨とする。
- 日頃からの家庭と「連絡帳」や「電話」で、些細なことも報告・相談し、保護者との関係を築く。体調不良やケガは素早く連絡する。特に首から上のケガは早急な連絡と救急対応を行う。
- 学校ホームページによる発信を強化し、学校の取り組みを保護者・地域に知らせ、関心と協力を得るツールとする。情報発信のペーパーレス化を継続する。
- 家庭でのタブレットPC等の使用指針となる「クロームブック使い方のきまり」を周知し実施する。
- 主体的な家庭学習を推進する。宿題＋自主勉強「学年×10＋アルファ」を実施する。
- 学年において、育てたい資質・能力を明確にしたカリキュラム・マネジメントにより、運動会、音楽会、宿泊行事、遠足を実施し、その児童の様子を保護者に伝える。

(5) 開かれた学校づくり（学校支援本部との連携、地域の教育資源・人材の活用）

- 今年度よりスタートする「コミュニティスクール」を活用し、さまざまな教育課題について意見を求めたり、ニーズに合った人材の情報提供を得たりする場としていく。
- 学年・専科のニーズに応じたゲストティーチャーの依頼や、授業準備の取組で「授業支援」「行事支援」を推進する。
- 保護者に学校を好きになってもらえるように、学校に足を運ぶ機会を月に1回設ける、学校行事に“参加型”の機会をつくる等、児童との思い出ができるよう工夫する。

◆教育への情熱と使命感にあふれ、センスを磨く教職員集団◆

～**チーム清四小**（学年・ブロック・専科、3部会3委員会）のチームワークを軸にして～

- (1) 謙虚に研鑽を続け、教員の資質・能力を高めるために切磋琢磨する教師集団
- (2) 問題を一人で抱え込まず、組織的に問題解決する教職員のチームワーク
- (3) 「気づき」を大切に、**“すきま”**をフォローし素早く行動する教職員のチームワーク
- (4) 学校運営を円滑にするために「PDCAサイクル」や「数字で示すこと」を大事にしていく。